



搭載のこぎりは何のため？！

また出た指令員の迷指示？

既に数ヶ月前の話になってしましますが、内房線内でワンマン列車が鹿と衝突し、鹿の首？が車輪に挟まり、動かせなくなるという事象がありました。その際、指令員より「(運転室に搭載されている)のこぎりて鹿の首を切ってください」と

いうとんでもない指示があり、当然のように運転士は「出来ません」と返答しました。当たり前です。自分だったら「おめえがここに来てやってみろよ」と

名札も 発令掲示も 何が何だかわからんぞ！

前号の名札に関する記事となります。現在の職名が排除された名札に変更となり、特に各詰め所では、何処の車掌なのか、運転士なのか分からない場面が多々あります。

更にグレー地となったため、

怒鳴っていたと思います。指令員も不慣れだったのか、一刻も早く電車を動かしたいという気持ちからパニックになってしまったの分かりませんが、そんなことしたら一生トラウマ間違いなしです。当該職場を通じて謝罪があったようですが、もう少し冷静に常識的にお願いしたいところであります。

運転室搭載ののこぎりは災害等による倒木の伐採用というのですが、この作業自体も「えっ？」と思いますが・・・。

非常に見え辛く、じーっと見てしまうこともあります。何故、今までのように白地にくっきりした黒文字ではないのでしょうか？会社の将来を暗示してグレー？・・・いや、既にブラックという声も出てますが・・・

発令の掲示に関しても、職名(運転士、車掌)が記されていないので、何のための転出、転入なのか、見習いの新人としてなのか、通常の転勤なのか、また職名変更もよく分かりません。

何故職名を隠す必要があるのでしょうか。疚しい魂胆でもあるのかと勘ぐってみたいこともあります。兼務発令が増えたことで、要員数の実態もあやふやな状態が続いていますが、それにも関連しているのでしょうか。風通しの良い職場風土とは明らかに逆行している会社の姿勢・・・問題大ありです！



うたてつ

ノススメ

第1回

なごり雪 (イルカ)

1975年11月

① 汽車を待つ君の横で僕は
時計を気にしてる
季節外れの雪が降ってる
東京で見る雪はこれが・・・

② 君が去ったホームに残り
落ちてはとける雪を見ていた
今春が来て君はきれいになった
去年よりずっと・・・

左別枠は、1番の歌い出しと2番のサビ部分。伊勢正三の作品で、本人もかぐや姫の4枚目のアルバムに収録。が、こちらのイルカバージョンの方が断然良い！温かみのあるほんわかしたボーカルはこの人の身上で、編曲を松任谷正隆(ユーマンの旦那)、Eギターの鈴木茂を始めとした錚々たるメンバーによる鉄壁バックと共にこの曲の情景を引き出すのに成功していると思う。もうすぐ春が来るというその日に別れを迎え、雪まで降ってしまうという主人公の男には絶望的なシチュエーション。なのにほんわかした歌と演奏で深刻さはあまり感じさせない。それ故の奥に秘めた寂しさは十分伝わるが・・・。「去年よりずっときれいになった」という歌詞に自分の手の届かない所に恋人が行ってしまうあきらめが感じられる。舞台は東京の駅だが、何となくのんびりほんわかした感じは、私鉄の駅かなと勝手に想像。高校時代、弾き語りした人も多いのでは・・・？